



2026年4月20日

報道関係者各位

慶應義塾大学

慶應義塾大学アート・センター主催
「アート・アーカイヴ資料展 XXIX
慶應義塾の谷口吉生 交差するまなざし」
開催(2026.5.11 - 2026.7.24)

建築家の谷口吉生は慶應義塾のキャンパスにおいて、他者の建築との共鳴のもとで新たな環境を生み出しました。幼稚舎では父・吉郎が手がけた本館に体育館と新館 21 を接続し、湘南藤沢キャンパスでは盟友・槇文彦による大学キャンパス外郭に設置する中等部・高等部校舎を設計しています。本展では建築物を取り巻く環境を活かした設計を行う谷口吉生が、建築を通して両巨匠とどのような対話を重ねたのかを探ります。

1. 基本情報

会 期： 2026年5月11日(月)～2026年7月24日(金)
土日祝休館 ただし7月18日(土)は開館
7月13日(月)は休館

開館時間： 11:00～18:00

会 場： 慶應義塾大学アート・センター(三田キャンパス南別館1階アート・スペース)

入 場： 無料

主 催： 慶應義塾大学アート・センター

企 画： 慶應義塾大学アート・センター

W E B： <http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive29/>

※ 最新情報は上記、展覧会ウェブサイトをご確認ください。

2. 展覧会概要

建築家の谷口吉生は、慶應義塾のキャンパスにおける建築設計に際し、他者の建築との共鳴のもとで新たな環境を生み出した。谷口は父・吉郎が1937年に完成させた幼稚舎本館に対して、50年後の1987年に新体育館を建設し、さらに2002年に竣工した新館21では、父の建築と直接つながるに際し、本館の様式に寄せたモダニズム・スタイルを選択している。また湘南藤沢キャンパス(SFC)では盟友・槇文彦がランドデザインを描いた大学キャンパスの外郭に接続するゾーンのひとつに中等部・高等部の校舎を設計した。そこでは中庭形式を採用することでひとつの領域としての独立性を保ちながら、本体に接続する建築群としての洗練された統一性を谷口の建築がみせていることに気づくだろう。本展では慶應義塾における谷口吉生の建築をテーマに、建築物を取り巻く環境を活かした設計を行う谷口吉生が、建築を通して両先達とどのような対話を重ねたのかを探る。

谷口吉生は建築設計の基本姿勢として、敷地や設計条件への応答を強調している。しかしそれは、所与の条件に発想が規定されるということの意味しない。むしろ彼は、そうした前提となる敷地や周

困の環境といった条件を、どこまで自らのコントロール下に置き、新たな「場」を築きうるか、という点を追求している。その「場」とは、動線に沿って常にシークエンシャルに展開する空間として建築を捉え、構築していく「作法」によって獲得される環境や雰囲気である。これらを踏まえ、本展は谷口建築を単体としてだけではなく、幼稚舎や湘南藤沢キャンパス（SFC）においてどのように他者の建築と協働し、谷口が望んだ建築体験を創出したかに光をあてていく。

3. 作家プロフィール

谷口吉生（たにぐち・よしお）

建築家・谷口吉郎の長男として1937年に東京で生まれる。はじめエンジニアを志すが、建築家・清家清の勧めもあり慶應義塾大学工学部を卒業後に渡米、ハーバード大学デザイン大学院に学び、榎文彦と出会う。1965年に東京大学の丹下健三研究室および彼の建築事務所に所属して設計経験を重ね、1974年に計画・設計工房を高宮眞介と開設、1979年には谷口建築設計研究所所長に就任し、以降は主に日本国内を舞台として長く活躍することとなる。建築に求められるプログラムと敷地の条件を考え抜き、自身の表現を抑制する谷口の建築は、抽象的な形態をみせるモダニズム建築として現れる。美術館建築の名手として知られ、資生堂アートハウス（1978）や土門拳記念館（1983）、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（1991）、豊田市美術館（1995）などを設計、数々の賞を獲得した。2004年には国際コンペを経てニューヨーク近代美術館（MoMA）の改築を担当している。その後も精力的に活動を続け、鈴木大拙館（2011）や京都国立博物館平成知新館（2014）、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館（2019）を設計し、2024年死去（87歳）。日本芸術院会員、文化功労者、受賞多数。

4. 展示予定作品

建築図面、建築模型、建築写真ほか

- a. 谷口吉郎の慶應義塾幼稚舎本館と谷口吉生の新館 21、体育館、自尊館
- b. 谷口吉生の慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部校舎と榎文彦の湘南藤沢キャンパス

©慶應義塾大学アート・センター／撮影：新良太

※画像を利用する際には、クレジットをおつけください。



a.



b.

5. 関連イベント

会期中にトークセッションを実施予定です。
詳細は展覧会ウェブサイトをご確認ください。

<http://www.art-c.keio.ac.jp/news-events/event-archive/artarchive29/>

6. 会場案内

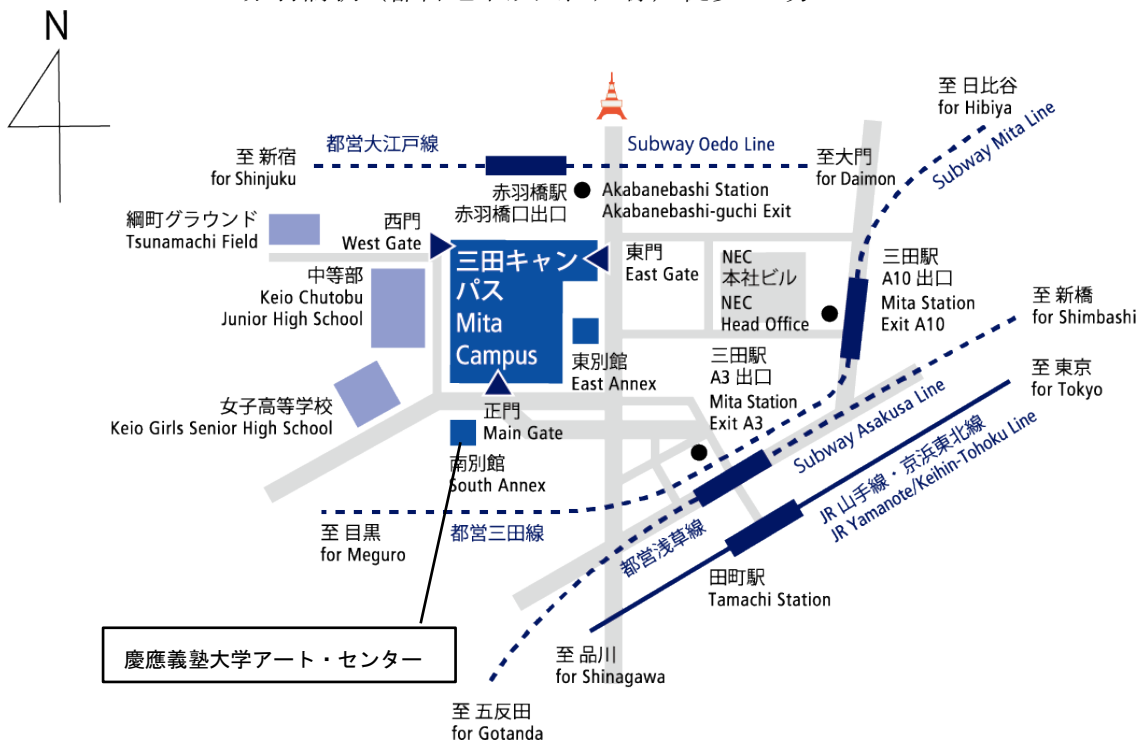
会 場：慶應義塾大学アート・センター（三田キャンパス南別館 1階アート・スペース）

住 所：〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

交通アクセス：田 町 駅（JR 山手線／JR 京浜東北線）徒歩 8 分

三 田 駅（都営地下鉄浅草線／都営地下鉄三田線）徒歩 7 分

赤羽橋駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩 8 分



※ ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※ 本リリースは文部科学記者会、各社社会部、文化部等に送信させていただいております。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室（向坂）

TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640

E-mail : m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>